

# はたらく車 池田に集合



オープニングの演奏をした池田小吹奏楽クラブ

## こども祭りinいけだ開幕

### ぶんぶん号で号外つくり体験

子供たちにさまざまな職業への関心を高めてもらうイベント「こども祭り2010 in いけだ」が27日、池田町田園ホールで開かれました。ふだんはあまり見たり触ったりできない消防車や白バイ、水陸両用車も展示されて、会場は家族連れでにぎわいました。

池田町観光協会が、商工会や農協のほか、町内のさまざまな行政機関、会社と呼び掛けて作った実行委員会が企画しました。柱は大きく分けて職業体験、アトラクション、働く車の展示の三つです。

職業体験は、バラエティーに富んでいました。自動車整備、ペンキ塗り、紙幣数え、おはぎ作り、パーマのロット巻き、測量、放水など16種類。中でも菓子職人が教えるキャラメルクリーム作りは大人気で

★  
**北海道新聞**  
★

発行所  
**北海道新聞社**  
郵便番号 060-8711  
札幌市中央区大通西3-6  
電話 011(221)2111  
©北海道新聞社2010

**速報**

インターネットで道新ニュース  
[www.hokkaido-np.co.jp](http://www.hokkaido-np.co.jp)  
ご購読申し込みは  
**0120-464-104**

**道新スポーツ**

した。  
マスコミに顔をそろえ、子どもも多く顔をそろえ、道新の「ほくとくん」、道新の「ぶんちゃん」、JR北海道の旭山動物園号をPRする「ぺん太」などで、子供たちに囲まれてうれしそうでした。

職業と一言で言っても、新聞発行や金融、建設、食品製造などおもに民間会社が担う分野があれば、体の不自由な人や

### NIE活動とは

「こども祭りinいけだ」では池田町内の小学生6人が記者やカメラマンの仕事を体験して「こども号外」を500部、発行しました。北海道新聞社ではこうした取り組みを「NIE活動」として各地で支援しています。

NIEとはNewspaper in Educationの略で「教育に新聞を」と訳されます。新聞を学校の授業で使ったり、壁新聞作りに取り組むほか、新聞社の情報発信機能を学ぶ活動で、先生たちと新聞社が連携して全国で進められています。

北海道新聞では、子供たちに新聞作りや新聞記者の仕事を知ってもらうため、記者を学校などに講師として派遣する「出前講座」や本支社、工場の見学受け入れを行っています。本支社、工場、またはNIE推進センター 011・210・5802へお問い合わせください。

お年寄りの生活を支える福祉の仕事のように民間と行政が協力し合う分野、さらには24時間体制で治安維持や人命救助に当たる警察や消防などの行政機関もあります。  
実行委員会の担当者は「どれ一つとして、社会に欠かせない仕事ばかり。子供たちに自分の将来を想像してもらえたら大成功です」と話していました。

池田消防署

東十勝消防事務組合池田消防署には消防職員20人が勤務していて、うち12人が高規格救急車に乗車して任務に当たる救急救命士です。24時間体制で消防、救急、救助活動をしています。水槽付きポンプ車は、水槽、消火剤混合装置、豊富な機材を備え、火災現場はもちろん、救助が必要な交通事故現場にも出動します。



池田警察署

池田署には大型パトカー2台、ミニパトカー9台が配置されています。交通取り締まりにはパトカーのほかに、池田署にはありませんが、白バイが活躍しています。1995年には女性白バイ隊「ノースウイングス」が誕生して、マラソンの先導や皇族、外国要人の警備も行っています。



北海道新聞社

札幌の本社から道内各地で行われる催し会場や、事件現場に向いて新聞を作るマイクロバスが「ぶんぶん号」です。車内にパソコンや印刷機があり、A3判カラーの両面を、1時間当たり2千400枚印刷することができます。

見えた分かつた  
しごとこの車のしくみ

北海道電力

高所の電線工事などで使うのが高所作業車。感電しないように絶縁性のバケットが付いていて、作業員が乗って作業をします。



郵便局

郵便物の引き受けは郵便局株式会社十勝池田郵便局が、配達は郵便事業株式会社十勝池田集配センターが行っています。配達で使う郵便車は8台、郵便バイクが6台あって、特に燃費が良く小回りが利くバイクは、かばんや収納ボックスを備えていて大活躍しています。



北海道開発局

災害対策用機械の一つに水陸両用車があります。岩山、沼地、冠水路、雪上などあらゆる地形で走行が可能で、災害時の情報連絡、人員や復旧機材の輸送、測量調査などに使います。乗車定員は6人で、陸上を時速50キロ、水上を沈まず同2キロの速さで進みます。

